「次代につながる日米交流の新展開に向けて」 レセプション

６月２６日，総領事公邸において，日米両国の次代を担う若い世代が，東日本大震災からの復興に関する活動を通して構築した「絆」を深化し，発展させることを目的として，「次代につながる日米交流の新展開に向けて」レセプションを開催しました。

本レセプションには，ベルビューカレッジのデービッド・ルール学長，当地日米協会のサム・シェパード会長，ピース・ウィンズ・アメリカのチャールズ・アーネソン・チーフ・エグゼクティブ・オフィサー，ローラシアン協会のマリ・マルヤマ副代表をはじめ，シアトル市，当地の教育･文化機関･団体等の代表者や，外務省主催の「キズナ強化プロジェクト」に参加したルーズベルト・ガーフィールド両高校の生徒及び教師，同じく外務省主催の「架け橋プロジェクト」に参加する予定のリバティー高校の生徒及び教師，また「キズナ強化プロジェクト・インターンシップ長期派遣プログラム」でシアトルに滞在中の日本人留学生等が出席し，次代の日米交流の在り方について活発かつ有意義な意見交換が行われました。

レセプションでは，百々総領事代理より，日米両国の次代を担う若い世代が，両国の将来について議論を深める基盤を確立することの重要性を述べた後，ケリー・オギルビー Quemulus, Inc. 社長（平成２４年度在米日系人リーダー招聘プログラム（JALD）被招聘者）による講演，ルーズベルト・ガーフィールド両高校から「キズナ強化プロジェクト」により東日本大震災の被災地を訪問した生徒によるプレゼンテーション，更に講演者に対する質疑応答がなされました。